

令和2年度第1回小諸市総合教育会議議事録（概要）

日時：令和2年12月16日（水）午後1時20分から午後2時55分

場所：小諸市役所3階 第1会議室

出席者：小諸市長 小泉 俊博（小泉市長）

| | |
|--------------|----------------|
| 小諸市教育委員会 教育長 | 小林 秀夫（小林教育長） |
| 教育長職務代理者 | 山下 千鶴子（山下職務代理） |
| 代表教育委員 | 塩川 秀忠（塩川委員） |
| 教育委員 | 柳澤 由美子（柳澤委員） |
| 教育委員 | 田中 隆之（田中委員） |

進行：総務部長（議事までの間）、市長（議事）

陪席：教育次長、学校教育課長、子ども育成課長、文化財・生涯学習課長、スポーツ課長、
人権同和教育課長、企画課長、行政経営係長、行政経営係員（記録）

内容

1. 開会

（総務部長）

2. あいさつ

小泉市長 皆様、こんにちは。今年も残すところ2週間となり、お忙しいなかお集まりいただき、誠に感謝申し上げます。平素より教育行政にお力添えを賜り、御礼申し上げます。本日は3つテーマがあるが、まず1点目として、新型コロナウイルス感染症の関係で申し上げますと、青木村で5名の小学生が感染となり、暗い影を落としている状況である。詳しい内容については、会議事項の中で議論をさせていただく。2点目であるが、こもろ未来プロジェクト教育編は教育大綱と教育振興基本計画が合わさっているものであり、4年前に初めて作成し、この4年間それに基づいて小諸市の教育をけん引させていただいた。改定作業を教育委員会で行ってきたが、再度内容について確認をお願いしたい。さて、今年から市長二期目となり、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、市民の皆様に広くお伝えすることができていなかったが、少子高齢化・人口減少の中で小諸市のこれからのあり方として、健幸都市こもろ（小諸版ウエルネス・シティ）を掲げた。健康分野だけではなく、教育・子育て、環境、産業・交流、生活基盤、行政経営の全ての分野で健康・健全を目指していくというものである。そういった状態であることが、人口減少の社会の中でも選ばれるまちであると考えている。教育というのは、その街の未来を形作るものであり、保護者の方々を

始め、社会から大きく期待を寄せられるものである。こういう厳しい時代の中でも人口が増えているまちは、教育委員会がしっかりしており、教育や子育てについて保護者を含めた多くの方から期待を寄せられているまちはないだろうか。今回のこもろ未来プロジェクト教育編を市民の皆様にお示しし、皆で作りに上げていくような、梅花教育を現代版とした形で進めさせていただきたい。3点目であるが、他の地域の都市化が進んでいる中で、小諸市の財産について子ども達が知らないという現実がある。小諸から出た人がふるさとである小諸に帰ってくる、もしくは、帰ることはできないが、遠くからでも温かく見守っていただけるような方々が増えるかどうかについて、教育は大変重要な役割を果たすと考える。本日は本市の教育に関する重要事項について教育委員の皆様と意見交換することで、教育委員会と市の事務の調整を図ることを目的としていることから、とてもよい機会でもあり、また、重要な機会でもあると捉えている。ぜひ、皆様には、忌憚のない、積極的なご発言をお願いし、冒頭のごあいさつとさせていただきます。本日は、よろしくお願い申し上げます。

3. 議事

(1)小諸市教育大綱の策定について

小泉市長 まず、小諸市教育大綱の策定について、事務局より説明願いたい。

教育次長 こもろ未来プロジェクト教育編（案）に関して、令和2年度から令和5年度を計画期間とする「小諸市教育大綱」と「小諸市教育振興基本計画」についてご説明申し上げます。地方教育行政の組織及び運営に関する法律により、地方公共団体の長が定めるとされている教育・学術・文化の振興に関する総合的な施策の大綱、そして、教育基本法に基づいて策定する教育振興基本計画との関連については、市長と十分な調整を重ねるとともに、パブリックコメントや関係団体の皆様からご意見をいただきながら計画の策定作業を進めてきたところである。小諸市では、教育大綱と教育振興基本計画を、こもろ未来プロジェクト教育編として一冊で編纂を行う。なお、教育大綱を定める、または変更する時は、総合教育会議で協議することとされていることから、本日議題とさせていただきます。計画の策定を進めるにあたり、市民の皆様からご意見をいただいた。資料、「小諸市教育振興基本計画（素案案）についてのパブリックコメント等ご意見の概要と市の考え方について」に沿って説明するが、令和2年10月21日～11月16日にパブリックコメントを実施し、2名の方からご意見をお寄せいただき、1名の方からはメールで52件のご意見、もう1名の方からは窓口で1件のご意見

をいただいた。また、関係団体等への説明をさせていただき、懇談をする中でいただいたご意見は48件であった。第11次基本計画や、教育振興基本計画及び教育大綱は、方針に基づいてどういう姿勢で取り組むのか大きな方向性を示した計画となっており、パブリックコメントや関係団体等との懇談の中でのご意見の内容が、個別の「事業」の展開や取り組みに対する内容のものについては、「実施計画」により具体的な事業を行うにあたっての参考や検討事項とさせていただくことを前提とし、それぞれのご意見に対して市の考え方を回答させていただいた。皆様には事前にお示しさせていただいているため、この場においては4件のみご説明する。1件目は、「今回の教育振興基本計画を作成するに当たって、前回の計画についてどのように評価して、今後の課題としてとらえているのか。」というご意見に対しては、「実際に事業を展開するにあたっては、実施計画をPDCAサイクルで回すなかで、毎年評価を行い進めている。また、今回計画の改定にあたり、4年間の取り組みの総括も行い、ほぼ計画に沿って達成できていると評価している。引き続き取り組む施策に、新たな取り組みを加え、令和2年度からの4年間の計画とする。」と回答させていただく。2件目は、「施策5生涯に渡る学習を支える環境の整備」について、「公民館活動を重点施策として掲載していただきたい。公民館は、現在、区（自治会）の現場で直面している多くの課題に対し、縁の下からになっているのが公民館（特に分館）でもある。」という旨のご意見に対しては、「重要な施策と捉えており、施策5中の“〇〇歳から高齢者までの生涯学習の機会の創出”の中の文化センターの記述を修正し、公民館等の活動を加えた。なお、公民館の具体的な取り組みは実施計画で定めて展開する。」と回答させていただく。3件目は、「施策6地域ぐるみで子どもを育む教育の推進」について、「この項目でも“眠育”について触れられているが、“何故子どもたちの生活リズムが崩されているのか”その背景にあるものをしっかりと問い直さないと、“家庭の責任”ばかりが強調されてしまうのではないかと危惧している。小諸の子どもたちの心と体が、今、健康に育っていない根拠があるようであれば公開していただきたいと思う。」というご意見に対しては、「子どもたちのスマホ・ゲーム機器等の長時間使用により、依存傾向が進んでいることがアンケート調査等からも分かり、心身への影響等が懸念されている。対応のきっかけのひとつとしても“眠育”が有効な取り組みであると考えており、ご家庭でも一緒に考え、行動変容にもつながることを期待している。」と回答させていただく。4件目は、「施策2学力向上と、自ら考え行動できる力の育成」について、「ICT教育が変わっていく。また、感染症への対策としても必要である。」というご意見に対しては、「施

策2中の“○ 問題解決的な学習による『生きる力』の育成”、また、施策3中の“○ 小・中学校のICT環境の整備”に記載してある。」と回答させていただくこととし、具体的な内容としては主に、「児童・生徒全員分の情報端末を配備して、学習の質の向上と効率化を図ること。新型感染症等の影響による臨時休業中の家庭学習にも活用できるよう備えること。」を記載している。

(事務局より資料こもろ未来プロジェクト教育編案に沿って説明)

小泉市長 それでは教育委員の皆様からご意見をいただきたい。まず、山下職務代理いかがか。

山下職務代理 再度読み返したが、良くまとめられていると思う。子ども達の将来に渡っての成長まで考えているとともに、特色ある小諸ならではの活動が明記されている。話は変わるが、最近、ふたご座流星群の観測に100人以上が集まった。星空も小諸市の貴重な財産である。私は文化センターで勤務しているが、成人はもとより子ども達の意識も変えていくことができる。子ども達の成長のためにも、単独ではなく、幅広く取り組んでいただきたい。眠育でも、それ以外でも、家庭の協力がなくなかなか実現しないことが多い。家庭にすべての責任を負ってもらうのではなく、始まりの部分や気づきなどをサポートしていただき、みんなで子どもを支えていく必要がある。小諸市は自校給食が1つの売りでもあるが、地産地消に関する提供先である生産者は高齢化しており、今後継続されていくのか心配である。

学校教育課長 地産地消に関する生産者の方はご指摘のとおり高齢化が進んでおり、後継者不足が懸念され、生産者との意見交換の場でもそういった意見が多くあがる。地域の生産者の中には若い方も何名かおり、そういった方が育っていくためにも、こちらから様々な制度の紹介やPRの支援などを行っていく必要はある。

小泉市長 次に、田中委員、何かご意見はあるか。

田中委員 山下委員と同じく、私も素晴らしいものができたと感じている。一つの所に向かっていくためには、市民の方々にいかに浸透させていくかが大事である。人の目の付くところに置いたり、学校の子ども達に見てもらったりしていただきたい。眠育について、私も中学生と小学生の子どもがいる

が、とても大事な取り組みであると思っている。眠育を踏み込んでできていないという現状も見て取れるが、病院の先生でも眠育の重要性を説いている方もいる。眠育はこれからの子育ての大事な受け皿となってくると思うので続けていっていただきたい。

小泉市長 学校給食や生産者について、小諸市の取り組み自体を理解されていない保護者の方もいるかと思う。さらに、こういった教育大綱・教育振興基本計画があること自体を知らない方はまだまだ多い。そういった状況の中で、今回の計画の中に眠育が記載され、子ども達の成長や学習面など様々なことに効果的に関わる問題として取り上げられたことで、PTAの皆様や社会一般の皆様に広く知っていただき、教育行政だけがやるものではなく、皆で作り上げていくものとなっていくはずである。

塩川委員 教育というものは、私たちが子どもの頃から大枠は変わっておらず、やることは決まっているかと思うが、それぞれの時代において、やらなければいけないこと、足していかなければいけないことがたくさんあり、今回の教育大綱と教育振興基本計画にはそれらを足すことで良いものになったと感じている。例えば、ギガスクール構想のICT教育ということでクロムブックを学校に配置しているが、これからどう活かしていくかが重要である。眠育は、ゲームをする子どもがたくさんおり、夜更かしをして昼間眠くなるということで、できるだけ睡眠を取って脳を活性化していこうということである。公民館活動については、中学が終了したら教育が終わりではなく、一生続いていくものであるかと思うので、小諸市が関わってそういった場を提供していくことが大切である。ウィズコロナと言われていたが、アメリカでは既に30万人の方が亡くなっており、第2次世界大戦時のアメリカの死者数に迫る勢いであるという。日本も他人事ではなく、流行り始めればそういった状況になってしまうのではないか。子どもの頃から、感染症や命に対する考え方を大人が教えてあげて、命を大切に、感染症に自分がかからない、他人にうつさないということを教育していかなければならない。今回の教育大綱には、あえてそういった部分は入っていないが、これからの時代ではより重要となってくる。

小泉市長 命に関わる話だと、最近子どもの自殺も増えてきている。子どもがこれから長い人生を生きていくためにも、子どもの内から命の大切さをしっかりと教えていくべきである。次に、柳澤委員はどのようにお考えか。

柳澤委員 一番大事なものは命であり、教育大綱にも「だいじな わたしの いのちとからだ」と記されている。平穏な年であっても、コロナウイルス感染症が流行した年であっても同じようにやっていくということがわかりやすく書いてあると感じた。初めて教育委員になった際に教育振興基本計画を読んだが、小諸市ではどういった教育を目指しているのか、どういった取り組みをしているのか理解しやすかったのを覚えている。今後、活用の仕方が課題になるかと思う。

小泉市長 私も、計画を策定し、皆様に冊子を配布するのみでは不十分であると感じている。田中委員はどのようにお考えか。

田中委員 中学生であれば、この計画の文章程度は読むことができる。例えば、中学生に計画を読んでもらい、ディスカッションしてもらおうといったことも良いのではないか。

小泉市長 小林教育長は何かご意見あるか。

小林教育長 他の自治体の教育に関する計画を見ると、かなり厚い計画を作っている自治体が多いように感じる。厚い計画と概要版という二本立てでもよいのだが、多くの人に使われ、実効性のある計画であることが重要であり、ご家庭の皆様にとって分かりやすい作りであることが望ましい。小諸市の大綱や計画は、行政用語をなるべく使わないようにし、写真を取り入れ、わかりやすい作りとした。市民の皆様にも、小諸市の全体像として、取り組み内容や関係性を知っていただき、同じ方向に進んでいければ良いと考えている。前回の計画を振り返ると、ほぼ達成することができたと言える。ALTを1名増員するという点については、英語専科の教員が入ったことにより外面的には達成していないが、実質的には達成できたと言える。計画は今の時点での計画であり、これから様々なことが起こるかと思うが、後々、追加しなければいけない事項が出てくる可能性はあり、その都度追加されていくことになる。4年間振り返ってみると、設備面については、費用がかかり大変なことではあったが、4年間で施設は見違えるようになった。各教室に大型テレビが入り、カラー映像の校内放送ができるようになった。子どもが書いたノートや先生の教科書をテレビに映しながら授業をできるようになった。また、冷暖房の設置も進んだ。それは、根本にこういった計画があり、状況に応じて対応してきたからである。今回、パブリックコメントや関係団体など、多くの方からご意見を寄せていただいたが、詳細

な内容についてはなるべく施策の中で実行していきたいと考えている。

小泉市長 他にご意見はあるか。

(他に意見なし)

小泉市長 小諸市教育大綱案に対してご異議はなかったものとして、原案のとおり策定としたいがよろしいか。

(異議なし)

小泉市長 それでは、小諸市教育大綱を原案のとおり策定とする。

(2)新型コロナウイルス感染症に関する保育・教育現場の対応について

小泉市長 新型コロナウイルス感染症に関する保育・教育現場の対応について、事務局より説明願いたい。

(事務局より、資料(2)新型コロナウイルス関連資料に沿って説明)

小泉市長 新型コロナウイルス感染症の対応について委員の皆様からご意見をいただきたい。昨年の今の段階ではこういった事になることは誰も想定しておらず、今年2月以降、3月から先行きが見えない中で、その時々でベストであると思われることをやってきた。幸いにも学校や保育園でクラスターは発生していないが、保護者の方が感染し、学校や保育園への感染拡大の恐れがある状況は複数回あった。その中で、教育委員、教育委員会事務局、学校・保育園とそのたび協議をしながら進め、資料にある対応方針としてまとめてきた。これまでの経過、これからの対応どちらについても良いのでご意見をいただきたい。

山下職務代理 学校や保育園の卒業式などの各種行事については、これまでの間、よく考え、工夫して行ってきたと思う。最近、次の成人式も延期という決断となったが、感染リスクが心配であることから、もっと早く延期や中止という決断をすることもできたかもしれない。しかし、成人になる方の気持ちも考えなければならず、世の中の状況を注視しながらこのタイミングで

の延期の決定となった。マスクを着用し、文化センターで成人式を開催するならば、感染リスクはそこまで高くないかもしれないが、成人式を開くことで、成人式後に友達同士で集まり、感染するリスクが非常に高まることが予想される。また、政府が Go To キャンペーンを中止したり、世界で死者が多数出ていたりという状況から、今回の決定になった。成人式を開催しないことにより、今回の成人になる方達が、成人としての意識をどのように高めるかということは今後の課題である。

小泉市長 　他の委員はご意見あるか。

塩川委員 　新型コロナウイルス感染症対策について、学校の教室は1教室に30人程度おり、どうしても密の状態となってしまう。これは仕方がないことであるが、将来に渡って、新型コロナウイルス以外にもウイルスは出てくる可能性はあり、換気による室内温度の問題や、消毒の問題など色々なことを考え、小学校の再編成をしなければならない。今後は、クロムブックを使って遠隔地から授業を行うことも1つの手段であると考えている。感染症対策を含め、ICT教育を考えていかなければならないと考える。これから5Gも始まり、ネットワーク設備もしっかりとしたものが必要である。そのためにはお金も時間もかかってしまうが、子どものICT教育について検討を続けていただきたい。

小泉市長 　他の委員はご意見あるか。

田中委員 　ICT教育については、塩川委員同様、私からもよろしくお願ひしたい。新型コロナウイルス感染症により学校がこれほどまで休校になるということは誰にとっても初めての経験である。卒業式で小林教育長が本質の話をされていたが、今の状況は本質を考える重要な機会であり、意識していかなければならないと考えている。それぞれ対策がされてきているが、ワクチンの開発や病気の全貌把握が進んでいる。計画やいろいろな取り組みは、作り進めていくことよりも、やめていくことの方が難しい。そういった視点も持ちながら進めていただきたい。

小泉市長 　ICTが遅れ、教育が遅れることがないよう気を付けなければならない。本質という部分はとても重要であるが、成人式を延期するという中で、どうしても不満の声はあがってしまう。命と健康を考えるのであれば、都会から小諸市に帰ってくることはリスクがある。都会でせっかく自粛をして

いる方々を呼び寄せ、感染リスクを高めてしまうことになってしまう。これらのことを皆様にご理解いただく努力を行政としてもやっていかなければならない。

柳澤委員 小諸東中学校で授業などを観させていただいたが、教職員の方はとても工夫しており、少人数でテレビを活用して授業を行っていた。給食の時も細かい予防対策に取り組まれていた。また、CTKも教育の番組を作るなどの取り組みをされている。保育園についても手洗いうがいなど、対策の徹底に励んでいる。成人式については、介護職の方であれば県外の方と接触したら相当期間休まなければいけない方もおり、出席するかとても悩む方が多い。残念ではあるが、延期は仕方がないことである。

小泉市長 小林教育長、ご意見はあるか。

小林教育長 判断をしなければいけないことが多くあるが、ぎりぎりまで追い込まれてしまうと良い判断はできない。事前に様々なシミュレーションを行い、判断を行ってきた。教育委員や学校長の意見をしっかりと聞き、気持ちを合わせて進める事を大事にしてきた。これからも同様に進めていきたい。

小泉市長 手探りの状況ではあるが、皆様のご協力のおかげでその時々最善を尽くせた。子ども達には精神的な負担をかけてしまったこともあるかもしれないが、教育を守るという目的は果たせたように感じる。これからも第3波の後も第4波、第5波があるかもしれないし、新型コロナウイルスが静まったとしても違うものが出てくる可能性はある。今回、学んだことを活かしていかなければいけない。

(3) 郷土愛を育む「ふるさと学習」の推進について

(事務局より資料(3)郷土愛を育む「ふるさと学習」の推進についてに沿って説明)

小泉市長 CTKで小諸ヒストリーや小諸ふるさと遺産について紹介していただいているが、これらは小林教育長により企画・構成ともに上手くできており、大人でも関心を持てる内容となっている。私もいろいろな方に小諸を知ってもらうために、小諸ヒストリーを渡すことがある。小諸の歴史は、御影用水に関する柏木小右衛門が綿を詰める話など、大人も驚かされる話は多くある。それでは、各委員からふるさと学習についてご意見をいただきたい。

塩川委員 小諸は歴史があり、遺産が数多く残っている。懐古園を一つとっても、知らないことはたくさんあるし、いろいろな方が小諸に関わってきた。子ども達に小諸を知ってもらい、将来は小諸に戻って来て、自分達の歴史を作ってもらいたいと思う。子どもに教えるには、まず大人が知らなければならぬが、意外と大人が知らないことが多いので、積極的に学んでいかなければならない。

小泉市長 他の委員はご意見あるか。

柳澤委員 ふるさと遺産を見させていただいたが、地域のことを誰が伝えていくかが重要である。どの学校でも地域の方の手を借りているが、これは大事な事である。しっかりと伝えていっていただきたい。

小泉市長 田中委員、何かご意見あるか。

田中委員 学校でこれだけ地域のことを教えてもらっているのはありがたいことであるとともに、子どもだけではなく先生の印象にも残るのではないかと思う。子ども達が身近なおじいさんおばあさんと交流できるような場を作っていただき、地元の人から地域の事を教わるのが良いと思う。

小泉市長 山下職務代理は、どのようにお考えか。

山下職務代理 60代以上の女性の方と話していても、小諸のことをあまり知らない方も多い。戊の満水の歴史について、まちを歩いてみようという企画を行ったが、過去の被害を多くの参加者が改めて気づかされ、ある参加者の方は短歌で戊の満水のことを詠んだ。いくつになっても学ぶ意欲は生きがいに通じるものがある。これからも多くの皆さんに小諸の歴史を伝えていきたいと思う。

小林教育長 3年間でふるさと遺産に認定した102件の遺産を、現在一つの冊子にまとめているところである。大勢の方に見ていただき、市民の皆様がふるさとに関心を持てるような社会でありたいと思う。

小泉市長 例えば、坂の上小学校では、子ども達が懐古園で観光客に語ることも、ビデオレターの交換でも、子ども達は嬉しく感じているように思うし、小

諸を子ども達が知らなければならない。また、芦原中学校で話をさせていただいた時は、自分達が中学生として小諸に何ができるのかを考えるよう話した。学校でなくても、小諸ヒストリーなどの本読んだり、テレビで小諸を知ったりなど、生涯に渡り様々な手段で小諸を知ることができる。教育大綱や各種計画は、一人でも多くの人に手に取ってもらい、知ってもらうことで、形にしていくことが重要であると考え。これからも教育委員の皆様にご指導をいただきながら進めていきたいと思う。さらに、コロナ禍がいつ終息するかわからない中で、皆様にご協力いただき、最善を尽くしていくことが我々の使命である。これからもよろしくお願いいたします。

(4) その他

(特になし)

4. 閉会

(総務部長)